

フォークリフトを起因物とする激突されの死亡災害発生事例（1999-2021年）

発生年	発生月	時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
2021	3	2 ～ 4	被災者は、事業場の製造過程において発生する木材の廃材を集積する作業を行うため当該廃材置場内を通行していたところ、木材を廃棄するために廃材置場内を走行していたフォークリフトにはねられ死亡した。	10402	100 ～ 299
2021	6	8 ～ 10	被災者が工場から補修テントに移動していたところ、後方からフォークリフトに激突されたもの	50101	50～ 99
2021	8	16 ～ 18	営業所内倉庫において、検品作業を終えた運転者がフォークリフトを所定の駐車位置に戻そうとバック走行していたところ、被災者に激突し、被災者は2メートル飛ばされ床に頭部を強打し、後日死亡した。ヘルメットを着用していなかった。	80401	30～ 49
2021	12	14 ～ 16	被災者が休憩のため解体作業場所から現場事務所に向かう途中、本件工事の発注者の労働者が運転するフォークリフトと接触し轢かれたもの。フォークリフトは専用アタッチメントでフレコンバッグを4つ吊っており、前の視界が制限された状況であった。	30209	10～ 29
2020	3	6 ～ 8	鋳型用の再生処理砂を運搬してきたトラック運転手が荷主事業場内を徒歩で移動中、他の運送事業者の労働者が運転するフォークリフトに轢かれた。なお、フォークリフト運転者は、廃棄物の入った鉄箱（縦1.2m・横1.5m・高さ1m）の運搬作業中であった。	40301	30～ 49
2020	5	8 ～ 10	市内にある工場（荷主）敷地内において、同社労働者がフォークリフトを運転し、被災者が運転してきた車両積載形トラッククレーンの荷台にコンクリート製品2枚1束（1枚700～900kg）を積み込んでいたところ、フォークに載った製品が荷台上で位置決め作業していた被災者の方向へ倒れ	40301	30～ 49

			掛かり、製品と一緒に荷台上から地面に転落し、製品の下敷きとなって死亡したものの。		
2020	10	10 ～ 12	会社敷地内において、被災者が穀物の検査検量作業を行っていたところ、工場内から後退してきたフォークリフトに激突された。被災者は後日、腹部鈍的外傷に伴う敗血症により死亡した。	170209	30～ 49
2019	2	10 ～ 12	岸壁において、外国から輸入されたコークスの入ったフレコンバッグの検数作業を行っていた被災者が、A社の作業員の運転するフォークリフトに激突されたものの。	170209	10～ 29
2019	2	14 ～ 16	被災者は、トイレに行くために作業場所から事務所へ敷地内を歩行していたところ、後方から走行してきた同僚が運転するフォークリフト（最大荷重：3, 550kg）に激突されて、倒れた後、当該フォークリフトの前輪に胴体をひかれた。	80109	10～ 29
2019	7	8 ～ 10	被災者は同僚2人と倉庫内の整理作業を行っていた。同僚の1人が倉庫内から倉庫外のアスファルト路面にフォークリフトを移動し、停車させていたところ、被災者と当該フォークリフトが路面の路肩から約60センチメートル下の水田に転落し、被災者の顔が水田に埋没している状態で発見され、翌日死亡した。死因は、被災者がフォークリフトに頭部を強打し、外傷性くも膜下出血を発症して意識を失い、窒息死したものと推定される。	60101	10～ 29
2018	2	8 ～ 9	酸洗いた鋼線コイルを次工程である伸線工程の作業場に運搬するため、線材製造二課の班長がフォークリフトを運転して酸洗いの作業場でコイルを積載し、伸線工程の作業場に運搬作業中、工場内の詰所（設備の運転管理室を兼ねる）付近を走行したときに被災者の悲鳴が聞こえ、班長がフォークリフトを降りて確認したところ、被災者が骨盤付近から出血して倒れていたものの。	11009	50～ 99
2018	2	18 ～ 19	工場敷地内のリサイクル家電品の積置用ヤードにおいて、荷降ろされた家電品を分別及び搬送するため用いていたフォークリフトを運転者が後退させた際、終業後同敷地に隣接する駐車場へ向かって歩いていた被災者が当該フォークリフト左後輪に接触し左半身を負傷したものの。その後左手首切断手	150102	100 ～ 299

			術、内臓損傷修復手術等を行ったものの、後日死亡した。		
2018	11	14 ～ 15	構内（屋外）を徒歩で移動中に、後方から来たフォークリフトの左前輪に轢かれたもの。	11501	30～ 49
2018	12	14 ～ 15	フォークリフトを用いて農業機械の運搬作業に従事していた労働者が、横倒しになった当該フォークリフトのフォークに頭部を激突され、死亡したものの。	80109	1～9
2017	1	10 ～ 11	舗装工事用振動ローラー（重量580Kg）にチェーンを掛けフォークリフト（2.5t）でつり上げ、走行してコンテナ内に積み込もうとしていた。同僚が運転するフォークリフトを被災者が誘導していたところ、フォークリフトに激突され、フォークリフトのマストとコンテナ入口の内壁の間に頭部をはさまれた。	80109	1～9
2017	4	16 ～ 17	コンテナ内において、被災者が1番奥に積込まれた荷の固定状況をカメラで撮影していたところ、荷を載せたフォークリフトの運転手がそれに気づかずコンテナ内に進入したため、激突された後、1番奥の荷とフォークリフトで運ばれた荷の間に挟まれたままとなったものと推定される。行方不明となった被災者を捜すため、本牧ふ頭に運ばれた当該コンテナを開梱したところ、被災者が挟まれ死亡しているのが発見された。	40309	10～ 29
2017	4	2 ～ 3	トラックからフォークリフトを用いての荷下ろし作業において、フォークリフト運転者がフォークリフトを後方移動させた時、トラックの荷を確認していた被災者に激突した。	10103	100 ～ 299
2017	5	8 ～ 9	製品検査場にて、検査が終了した製品の入った金網製ボックスパレットをハンドリフトで後方へ引きながら運搬していたところ、金網製ボックスパレットを2段積んで前進中のフォークリフトに激突され、反動でフォークから落下した2段積みボックスパレットの下敷きとなった。	11509	50～ 99
2017	9	14 ～	産業廃棄物処理場で、被災者がトラックのあおりを直していたのを見たフォークリフト（以下「フォーク」という。）運転者は、手伝うためにフォークのエンジンをかけたまま停車させ、下車した。その際、フォークが	20201	1～9

		15	自走し始め、運転者が止めようとしたが間に合わず、被災者はフォークの爪とあおりに挟まれた。		
2017	11	8 ～ 9	工場内で破砕機の防音工事中、労働者がフォークリフトを動かしたところ、操作を誤りフォークリフトが暴走し、壁に激突しそうになったため急にハンドルを左に切ったところ近くにいた被災者（同僚）に激突した。	30203	1～9
2016	2	11 ～ 12	事業場倉庫の建設のため、同僚が長さ12mのH鋼の梁（約500kg）をフォークリフトで運搬中、被災者は、梁が揺れて落ちないように手添えしながら移動していたところ、フォークリフトが前後に揺れ、フォークに乗せていた梁が左右に天秤状になったため、被災者が大きく上方に揺れあがった梁を両腕を伸ばして抑えようとした際、当該梁の下敷き（頭部を挟まれ）となった。	10109	1～9
2016	7	14 ～ 15	工場の製品倉庫内で、労働者Aが最大荷重13.5tのフォークリフトを使用し、梱包された角材（約1トン）を出荷場所へ運搬していた際、同社嘱託社員の清掃員Bをバック走行中に轢き死亡させた。	10401	300 ～ 499
2016	11	10 ～ 11	貯木場にて、材木の計測等のために材木を仮置場所から計測場所にフォークリフトで移動させ、次の材木を移動させる為にそのままフォークリフトで仮置場所に向かって後退したところ、休憩室から材木の仮置場所へ向かっていたと思われる被災者に激突した。	60209	1～9
2015	7	16 ～ 17	被災者がフォークリフト（最大荷重2.9t）を運転し、トラックの荷台から円盤状の鋼材スクラップ（重量3.15t）を荷下ろし作業中、フォークリフトが前方に傾いたため、フォークリフト後部（カウンターウェイト）に浮き上がり防止用に載せていたおもり（重量0.94t、固定なし）が運転席側へ倒れ、被災者の背中にのし掛かり、腹部をハンドルとおもりにはさまれたもの。	11009	10～ 29
2015	9	8 ～ 9	クランプリフトで機械加工原紙を荷降ろしした後、バックで走行中、同じ建屋内にある廃棄物の圧縮処理を行うベラー室から出てきた被災者と激突したものである。激突された被災者はそのまま床面に倒れ、頭部を打撲したこ	10701	100 ～ 299

			とが原因で死亡した。		
2015	5	13 ～ 14	リフトマンがフォークリフトに荷を積載し、鉄製の棚（幅：約5 m、奥行き：約1 m、高さ：約3 m、重量：約400 kg）の上部に置いてあるパレットをフォークで押したところ、当該棚が倒れ、倒れた位置でゴム成形作業を行っていた被災者の後頭部に激突し、被災したものの。	10806	300 ～ 499
2014	1	10 ～ 11	工場敷地内の構内道路（斜度6度）に設置されたマンホールから泡（※製造の過程で使用した洗浄液が発酵し、発生すること）がわき出ているのを巡回の際に見かけた被災者は、自ら泡消しを行うため、噴霧器を使用して薬液を散布していたところ、立方体の形状のタンクを載せて直進してきたフォークリフト（最大荷重2トン）に轢かれた。	10899	100 ～ 299
2014	2	14 ～ 15	工場内にて、コンクリート擁壁を製造する生コンクリートが入ったコンクリートバケットをフォークリフトで搬送していたところ、直進中のフォークリフトの前方に立ち入った被災者に接触した。	10901	1～9
2014	3	13 ～ 14	バンニング場内にて、コンテナに荷札を取り付けようと、構内を歩行していた被災者は、後進してきたフォークリフトに激突され、死亡した。	40301	30～ 49
2014	3	8 ～ 9	フォークリフト運転者が、サイドブレーキを引かずに運転席を離れた際、作業面が傾斜していたため、フォークリフトが斜面を下り、大型トラック方向に動き出し、フォークリフトを止めようとしたフォークリフト運転者である被災者が、フォークリフトと大型トラックの間に挟まれ、死亡した。	70101	10～ 29
2014	5	19 ～ 20	荷主側構内にて、クールボックスの積み込み作業中、フォークリフトオペレーターがクールボックスをフォークリフトでトラック荷台へ積み込んだ際、クールボックスが荷台上にいた被災者側に倒れ、被災者の頭部に当たった	40301	50～ 99
2014	6	13 ～ 14	製材工場にて、フォークリフト前輪付近を点検していた際、製品を積込に来ていた同僚がトラックに製品を乗せるため、点検中のフォークリフトのエンジンをかけ前進させたところ、被災者は前輪に轢かれ、死亡した。	80409	10～ 29

2014	8	9 ～ 10	喫煙場所まで歩いていたところ、背後から前進中のフォークリフトに激突され、轢かれた。	11002	100 ～ 299
2014	9	15 ～ 16	ダストボックスをフォークリフトに積載し、ボックスを地面から30cm程上昇させた状態で前進走行中、前方を歩行中の被災者がボックスの下に巻き込まれた。	150102	10～ 29
2014	9	10 ～ 11	フォークリフト運転手が、トラックからアルミパレットの荷下ろし作業を行い、フォークリフトを後進させた際、フォークリフト後部に接近してきた被災者と接触。被災者は後方に転倒し、頭部を地面に強打し、死亡した。	40301	100 ～ 299
2014	11	21 ～ 22	トラックターミナル内のホーム上にて、同僚が、荷の積み込みをフォークリフトで行っていた際、荷台内でバックレストから爪が外れたため、被災者が爪を取り付けるのを手伝っていたところ、ホームと荷台の隙間にフォークリフトの前輪が落ち込んだため、同僚がアクセルを踏み込み、被災者がバックレストと荷台の内壁に頭部を挟まれた。	40301	100 ～ 299
2014	11	14 ～ 15	フレコンバッグに米を充填中、フォークリフトのフォークにフレコンバッグの吊りベルトを掛けようとした際、充填中の米がこぼれ出し、被災者がこれに対処するため、フォークの前に出ようとしたところ、フォークリフト運転手が踏み込んでいたクラッチを上げ、前方に動いたフォークリフトのフォークが被災者の腹部に激突した。	10109	1～9
2013	1	11 ～ 12	被災者は、原料置場付近を通行していた際、既に荷卸しされていた原料の古紙ブロックと、その横に荷卸しようとしたバールクランプ付リフトの荷側面と接触し、左側の古紙ブロックとの間に挟まれて死亡した。尚、運搬中の荷で死角となっており、リフト運転者は被災者との接触に気付かなかったため、発見が遅れた。また、古紙ブロックは重量約700kgで、これを4個運搬していた。	10601	30～ 49
2013	2	10 ～	工場内の通路を歩行中、側方から走行してきたフォークリフトと接触し、被災者が倒れたところをそのままフォークリフトで轢かれた。尚、フォークリフトのアタッチメントとして使用していたバケットは、地上から1.6mの	10909	50～ 99

		11	高さがあり、前方が見えにくくなっていた。		
2012	9	10 ～ 11	敷地内でセメントの原料をプラントに入れる作業をしていた被災者は、別の労働者が運転するフォークリフトに轢かれた。なお、フォークリフトは生コンを入れるホッパーを運搬中であったが、その前方を被災者が横切った。	150102	1～9
2012	11	9 ～ 10	圧延工場の敷地内において、夜勤を終えた被災者が同敷地内を通勤用の原動機付き自転車で走行中、ビレットを運搬するため、他の労働者が運転していたフォークリフトの右爪部分が被災者の腹部に激突し、出血多量で死亡した。	11001	100 ～ 299
2011	4	17 ～ 18	被災者は、フォークリフト運転手とツーバイフォー材の（高さ74.5cm、奥行き109cm、幅233.6cm、重さ0.8t）積荷運搬作業の補助作業を行っていた。フォークリフト運転者は、既に仮置きされていた資材の上に重ねて積載するために、被災者は、リングを一段目の資材の上に置き、フォークリフトを誘導中にフォークリフトで運搬していた資材と仮置き場所の背後にあった鉄柱との間に頭部を挟まれ被災したものの。	10409	30～ 49
2011	8	14 ～ 15	プレス機械に金型をセットするため、フォークリフトにて敷台を移動中、横に置いてあった治具（円筒形芯金：長さ2m、直径0.25m）に敷台の先端部分が接触し、これが動き、プレス機械の横に居た被災者の足に当たった。両足骨折にて療養中のところ、9月4日、容体急変し、死亡した。司法解剖によると、死因は足にできた血栓が肺に詰まったことによる肺塞栓症とされた。	11209	30～ 49
2011	5	13 ～ 14	被災者は、バケットを取り付けたフォークリフト（最大荷重1.8t）をエンジンがかかったまま停車させ、付近の材料置き場にいたところ、フォークリフトが横転し、バックレストの下敷きになったもの。被災者が運転していたフォークリフトのバケットには、チェーンフックにより荷（重量150kg）が吊られている状態であった。被災者は災害当日、病院で死亡が確認された。	11002	10～ 29
			廃車となった2tトラックのアルミ製の荷箱（長さ：約4m、縦横：約2		

2011	12	8 ～ 9	m) を地面に下ろすため、事業者がフォークリフトを操作して荷箱後方を少し持ち上げ、また、被災者は車体と荷箱の間に台木を挿入するため、荷箱脇で待機していた。その際、荷箱が地面に横転し、被災者がその下敷きとなって死亡したもの。なお、トラックの車体と荷箱部分は、災害発生前に溶断等により切り離された状態となっていた。	80109	1～9
2010	12	9 ～ 10	フォークリフトを使用して、造作中の船体に資材を運び入れる作業を行っていた。300t 橋形クレーンが接近していたことに気づき、あわててフォークリフトを移動させようとしたが間に合わず、クレーンの接触によりフォークリフトの運転手（被災者）は地面に投げだされ、その直後、フォークリフトが横転、被災者がその下敷きになったもの。作業箇所はクレーンの走行レール沿いに設けられた立ち入り禁止区域であった。	11501	1～9
2010	11	10 ～ 11	被災者は倉庫においてロールクランプを運転する労働者2名の積み込み作業の作業指揮を行っていたところ、バック走行してきたロールクランプの運転者が後方をよく確認しておらず、ロールクランプに接触されて被災者が転倒し、コンクリート床面に頭を強打したもの。	50101	1～9
2010	11	14 ～ 15	鉄骨製のビニールハウスを補修作業中、屋根部分の小梁をビス止めするためフォークリフトのパレットを足場代わりに作業をしていた。被災者が同僚にパレットを少し上げるよう指示したため同僚がフォークリフトのエンジンをかけたところ、ギアが入っていたためフォークリフトが前進し、ビニールハウスの鉄骨骨組みとの間に腹部を挟まれた。被災者を含め3人で作業を行っていたが、フォークリフト運転の資格者はいなかった。	170209	30～ 49
2010	8	9 ～ 10	コンテナ修理作業場所の移転準備として、新規作業場所を表示するための白線を引く作業（被災者を含め2名がロープの端をそれぞれ持ち直線を出し、これを目安に労働者1名がチョークにより地面（アスファルト）に線引きする）を行っていたところ、隣接する位置にあった空コンテナを移動させようとした他事業場労働者が運転するスプレッド付きフォークリフト（最大荷重7t）にはねられたもの。	11209	10～ 29
			被災者含め5名で、肥料の入ったフレコンバック（乱袋、重量約1t）の詰		

2010	2	8 ～ 9	め替え作業において、1台のフォークリフトでホッパー（鉄製、重量約330kg）を上げ、もう1台のフォークリフトで同フレコンを吊り上げながら、ホッパー上からカッターで切ったところ、塊となった肥料が落下し、その反動でホッパー側のフォークリフトが前方に傾き、ホッパーを爪に固定していなかったためホッパーが滑り落ち、下敷きとなったもの。	50101	10～ 29
2009	8	12 ～ 13	フォークリフト（最大荷重7t、コンテナ用アタッチメント付）の運転者に連絡事項を伝えるため、作業中のフォークリフトに近づいた被災者が、後進して来たフォークリフトにひかれた。	170201	10～ 29
2009	4	9 ～ 10	被災者は、ボディー工場構内を歩行中、構内で空のパレットを搬送していたフォークリフトに激突された。	40301	300 ～ 499
2009	11	15 ～ 16	被災者は、自転車に乗りボイラ室のボイラーの点検に向かう途中で、パルパー室前の構内道路（幅員9.7m）を走行していたところ、被災者が、最大荷重3.5tフォークリフトで紙製造用パルプ（1.8m×1.5m×1.2m、重量約2.4t）を積載し前進の状態で運搬中のフォークリフトに後方から追突され、横転して荷と路面との間にはさまれた状態で引きずられた。	10601	300 ～ 499
2009	3	10 ～ 11	トラッククレーンを用いて電柱の積み込み作業中、作業場内で変圧器の運搬を行っていたフォークリフトと激突した。	30301	30～ 49
2009	1	16 ～ 17	合板製造工程中にあるドライヤー機械の清掃作業（毎週1回木端等を取る）にあたり、清掃開始前の打ち合わせに向かった際、後進してきたフォークリフトに接触し、同後ろボディの下部分に両足がかかった状態で仰向けに倒れた。なお、被災者は、ヘルメットは着用し顎紐も掛けていたが、倒れたところから5m離れたところに転がっていた。	10402	100 ～ 299
2008	12	7 ～ 8	被災者は、構内の事務所でタイムカードを押し、被災者の作業場所である組立工場へ行くため構内の道路（幅約8.8m）上を歩いていた。その際事務所から約100m北側の工場と工場間のコーナーで、被災者の後方から荷を積んで前進して来たフォークリフトの前輪にひかれ死亡した。	11501	100 ～ 299

2008	4	11 ～ 12	フレコン（牛の配合飼料、1袋500kg）を倉庫内に運ぶため、フォークリフトのフォークにフレコンを2袋つるした状態で作業者がフォークリフトを運転し前進走行をしていた。その際、出勤のため工場入口から食堂がある建物内に向かって歩行していた被災者とフレコンが接触し被災者が転倒し死亡した。	150109	～ 299
2008	11	16 ～ 17	丸太の廃材（直径35cm、長さ80cm）を鋼製のコンテナに入れるため、フォークリフトの右側のフォーク先端箇所にも丸太を立てて載せ、被災者は左右のフォークの間に立ち入って丸太がフォークから落下しないように押さえいていた。運転者がフォークリフトを操作しコンテナに近づけようとした際、丸太が落下しそうになったため運転手がハンドルを操作したところ、左側のフォークとコンテナとの間に被災者がはさまれ死亡した。	10401	1～9
2008	4	20 ～ 21	得意先から出庫される荷を積むために、14tトラックで入場して予め積んであった緩衝材をいったん降ろす作業を行っていたところ、出庫業務を請け負っている荷物取扱い業者の作業者が運転するフォークリフトに接触、転倒して死亡した。	40301	10～ 29
2008	2	17 ～ 18	リーチフォーク（最大荷重1.7t）を使い、外壁材（2.16t）を約90cm持ち上げて移動していたところ、コンクリート地面に傾斜があったためリーチフォークが前のめりになり後部があがり荷物が崩れ落ちた。その時、被災者も運転台から地面に投げ出され、倒れたところに反動で戻ったリーチフォークの左後輪が被災者の上に落ちてきて、死亡した。	80201	300 ～ 499
2007	7	16 ～ 17	被災者は、ボラ土製造工場内において、ボラ土の入った荷（フレコンバック、重量約650kg）のはい付け作業をフォークリフトを使用して1人で行っていた。8つ目（高さは2段積み）の荷を積む時に、床面に窪みがあったため、その床面へパレットを敷き込もうと荷をつり上げたままフォークリフトの運転席を離れて、パレットを設置している時に、フォークリフトが被災者の方向へ動き出し、荷の下敷きになり死亡した。	20202	10～ 29
		10	事業場敷地内の屋外の荷捌き場において、パレットの上に載っている荷を人力でトラックに積み込む作業を行っていたところ、パレットとトラックの間		10～

2007	9	～ 11	で作業を行っていた被災者が、同僚の運転するフォークリフトに激突され、フォークリフトのバックレストとトラックの後部バンパーにはさまれた。	40309	29
2007	6	8 ～ 9	工場内で看板を取り外す作業を行うため、燃料プラスチック受渡しエリアを通行していた被災者が、燃料プラスチックの運搬のため旋回したクランプフォークリフトの右前方部分に激突されて約7m引きずられ死亡した。	30203	10～ 29
2007	9	12 ～ 13	クレーンのグリスアップに使用したグリス缶の空き缶を廃棄するため、構内道路脇のゴミバケツ置き場に行った際、フォークリフトにひかれた。	11501	10～ 29
2007	6	8 ～ 9	フォークリフト（最大荷重1.5t）を用いて倉庫の庫内整理を行っていたところ、稼働中の当該フォークリフトの後部カウンターウエイト上に置いてあった書類を取りに近づいた被災者が後進した当該フォークリフトに激突された。	80401	1～9
2007	5	18 ～ 19	資材置き場において、被災者と同僚1名が鉄筋の束を移動させる作業を行っていた。重さ約160kgの鉄筋の束に被災者がワイヤロープを掛け、同僚がフォークリフトの爪で鉄筋をつり上げ、フォークリフトを運転し、被災者が鉄筋の束を手でおさえるためフォークリフトの左前方を移動していた。約40m運転した地点で、被災者がフォークリフトにひかれ左前輪の下敷きになった。	30201	1～9
2007	12	8 ～ 9	丸鋼（鉄鋼製品的一种）を運ぶために運転していたサイドフォーク（最大荷重8t）が、製鋼所構内の道路上にある交差点を左折した時に、サイドフォークの前方部が通勤のため同道路を通行していた被災者に激突した。	11001	1000 ～ 9999
2007	9	14 ～ 15	構内請負業者の事務補助の勤務を終えた被災者が、工場敷地内の道路上を歩いていたところ、トレーラーから資材を荷卸していたフォークリフトが後進した際にフォークリフトにひかれた。	30309	1～9
2007	2	7 ～ 8	被災者がフォークリフトを使おうとしたところエンジンがかからなかったため、別のフォークリフトにより引っ張りエンジンをかけようとベルトスリングを掛けて牽引した際、ピンが外れて被災者にあたった。	40301	1～9

2006	12	18 ～ 19	フォークリフト運転者はパレットを移動させる業務を、被災者は梱包物の伝票と製品を確認する採寸の作業を行っていた。フォークリフト運転者がパレットが3、4枚重ねられていたところから1枚をとり、方向転換したところ、倉庫から外へ歩いてきていた被災者の足を後輪で轢き、激突した拍子に被災者は仰向けに倒れた。	11709	50～ 99
2006	12	10 ～ 11	肉解凍用コンテナの洗浄作業後、荷役ヤードを歩行移動中にバック走行のフォークリフトと接触して転倒、コンクリート土場で体を強打した。	10101	30～ 49
2006	9	10 ～ 11	フォークリフト（最大荷重1.5t）を傾斜地に止め、近くで別の作業を行っていたところ、当該フォークリフトが無人の状態で突然動き出し、それを停止させようと近づいた時にフォークリフトが横転し、被災者がその下敷きになった。	150102	10～ 29
2006	11	18 ～ 19	冷凍冷蔵品宅配センターの建屋内の構内において、ステンレス製箱（縦1.1m×横1.1m×高さ1.8m）の荷を積載して前進運転で走行していたフォークリフトにはねられた。	40301	1～9
2006	11	13 ～ 14	クレーンアーム付きフォークリフトにて、重さ約200kgの油圧ポンプを吊りながら搬送中、被災者は荷が揺れないよう歩いて支えていたが、途中で転倒し、フォークリフトに激突された。	40301	30～ 49
2006	9	10 ～ 11	貨物船に線材コイルを船積みするため、フォークリフト1台を用いて船倉内で積みつけ作業中、岸壁から移動式クレーンを用いて船倉内に搬入した1束約2tの線材コイル1束をフォークリフトで積み付ける近くに仮置きするために運搬していたところ、フォークリフトが切り返しのためバックをしたときにフォークリフトの後部が、壁際にいた積み付けの補助をする被災者に激突した。	50202	100 ～ 299
2006	2	15 ～ 16	構内において被災者がトラックを送り出す合図をしているときに、付近で別の作業をしていた労働者が運転するフォークリフトが後退し、被災者が轢かれた。	40301	100 ～ 299
			被災者がフォークリフトを使用して13トントラックに空瓶等を積込む作業		

2006	9	14 ～ 15	を行っていた。当該作業が終了したので運転していたフォークリフトをトラックの左後方に止め、トラックの荷台（ウイング）を閉めるためにトラック後方にある押しボタンを操作していたところ、動き出したフォークリフトとトラックにはさまれた。	80401	30～ 49
2006	8	16 ～ 17	センターのプラットホーム上を歩行していた被災者が、後進してきたフォークリフトにひかれた。	80401	50～ 99
2006	7	10 ～ 11	事業場間を移動中の被災者が、隣接するグループ会社の労働者が運転する、空の段ボールを積載し、前進で走行するフォークリフトにはねられた。	10109	50～ 99
2006	6	16 ～ 17	倉庫内で箱物の荷積み作業を行っていたところ、バックで走行してきたフォークリフトと高さ約1.2メートルの鉄製の棚に挟まれた。	80401	100 ～ 299
2006	5	13 ～ 14	伸線工場において被災者は午後から試作品のテストを実施していたが、テスト中に西側のフォークリフトの通路へ飛び出したところ別のラインで出来上がった伸線を運搬中のフォークリフトに激突された。	11001	30～ 49
2006	5	10 ～ 11	塩化ビニル製パイプの収納ラックの整理を行っていたフォークリフトが、後退した際に被災者に激突した。	80401	1～9
2006	3	14 ～ 15	構内において、屋根取付工事で使用するH形鋼（長さ15m、幅0.3m、高さ0.7、重量約4.21t）をフォークリフト2台で両端を吊り上げて運搬していたところ、後進しながら運搬していたフォークリフトがバランスを崩して転倒した際に、被災者がフォークリフトのヘッドガードの下敷きになった。	30203	1～9
2006	4	22 ～ 23	港内にて、荷役作業中、被災者が、自分の運転するフォークリフトから降りたところ他社のフォークリフトにひかれた。	50202	10～ 29

2006	2	18 ～ 19	出荷用の米を、翌日の出荷時に出荷しやすいように位置を替える作業をフォークリフトで行っていた被災者が、終業時間を過ぎても事務所に戻らないため同僚が様子を見に行ったところ、荷とフォークリフトに挟まっていた。	170209	10～ 29
2005	11	14 ～ 15	被災者がフォークリフトの前方を横断しようとしたところ、フォークリフトに激突された。	10101	1～9
2005	9	13 ～ 14	建設機械に使用する鉄板（1枚の重さ100kg）28枚をフォークリフトで運搬中、被災者が前方にいるのに気付いて急停止したところ、フォークリフトの後輪が浮き上がって前に傾き、鉄板が前方に崩れ被災者に激突した。	11301	1～9
2005	6	14 ～ 15	産業廃棄物処理工場内において、フォークリフトを所定の場所に移動させていたところ、前方にいた被災者に気づかず激突した。	150102	10～ 29
2005	8	11 ～ 12	岸壁において船より荷揚げされた貨物の検査業務中、走行してきたフォークリフトにひかれた。	170209	50～ 99
2005	1	22 ～ 23	車両の交通整理中、傾斜部に停車していたフォークリフトのサイドブレーキが引かれていなかったために動き出し、被災者に激突した。	170201	50～ 99
2005	11	16 ～ 17	作業場所に徒歩で向かう途中、走行中のフォークリフトの爪に引っ掛けられ、左前輪でひかれた。	50101	300 ～ 499
2005	12	17 ～ 18	分別した廃材をフォークリフトで所定の置き場まで運ぶ際、前方にいた被災者に衝突した。	150102	30～ 49
2005	10	15 ～	工場構内において、地面に飛散したバラ古紙をフォークリフト及び人力で清掃作業中、バックしたフォークリフトが作業していた被災者に激突した。	10601	10～ 29

		16			
2004	2	15 ～ 16	工場内において圧縮梱包機での番線結合作業を終え移動中に、3段に積み上げられたパレット付籠と圧縮梱包機の支柱の間を通過した際、フォークリフトが当該3段積みのパレット付籠に接触し、その衝撃によりパレット付籠が横滑りして被災者に激突した。	10609	1～9
2004	8	15 ～ 16	トラックに段ボールを積み込む作業において、作業場を移動中、別のトラックに使用する作業用の台を運んでいたフォークリフト（バックで移動中）後部と激突した。	40301	10～ 29
2004	3	15 ～ 16	ダンボール製の空容器をフォークリフトに積載して運搬中、後進したところへ、被災者が通りかかり、フォークリフトに激突された。	10805	1～9
2004	5	7 ～ 8	被災者は、精米工場内の第2計量室から第1計量室へ歩いて移動中、第1計量室内から出てきたフォークリフトに激突された。	10109	1～9
2004	1	9 ～ 10	構内の鋼片置場で、鋼片の出荷作業に従事していたとき、後進してきたフォークリフト左後輪にひかれた。	11001	100 ～ 299
2004	11	16 ～ 17	構内を歩行中、角材を積んで前進してきたフォークリフト（最大積載荷重4.5 t）に激突された。	10409	30～ 49
2003	11	17 ～ 18	建築用のケイ酸カルシウム板のサンダー加工作業で、同僚が加工の済んだ製品をフォークリフトで指定の場所に移動し、2段目の荷を積んで後退した際にフォークがパレットに接触して1段目の荷から4～5cmずれたので、そのずれを直すために再度フォークリフトを前進させたときに、フォークリフトと荷との間に入ったためマストと荷の間にはさまれた。フォークリフトの運転手は無資格だった。	10909	10～ 29
		13	酒造会社の敷地内で、荷待ち中のトラック運転手が酒（2.7リットル×6本		10～

2003	9	14	～	×	54箱）を運搬中のフォークリフトに衝突され、フォークと地面（約25cm）との間に挟まれた。	40301	29
2003	9	11	～	12	貸倉庫にコンテナで運ばれてきた板ガラス(高さ198cm、幅246cm、厚さ31cm)を束ねた荷（一束の荷の重さ約2t）をフォークリフトで移動しようとしているときに、荷のすぐ横で清掃作業をしていた者に荷が倒れ荷とコンテナの内壁との間にはさまれた。	40301	1～9
2003	8	11	～	12	倉庫のパルプを6tフォークリフトで10tトラックに積み込む作業で、2回目の積み込みを終わって次の積み込みのためフォークリフトを後進させたときに、軽自動車のある場所へ向かっていた者に激突した。	80401	10～29
2003	2	12	～	13	製鉄所の倉庫で、最大荷重8tのラムフォークリフトで金属コイルを搬入していたときに、倉庫内で作業していた他の労働者をラムフォークリフトではねた。	50101	10～29
2002	12	17	～	18	リン青銅帯（6 t）をフォークに差して前進で走行中、帰宅のため工場内の横断歩道を歩いていた者に気が付かずに轢いた。	11101	1000～9999
2002	9	10	～	11	最大荷重3tのフォークリフトを運転して灰の計量を行うため後退させていたときに、フォークリフトの後方から歩いて近づいてきた同僚を跳ねた。	11209	100～299
2002	7	11	～	12	倉庫上屋前で、貨物自動車のバン木を取り除く作業を行っていたところ、プレス機械を貨物自動車へ積込むためバックしてきて旋回したフォークリフトのプレス機械が横転し、貨物自動車とプレス機械との間に挟まれた。	50202	30～49
2002	4	16	～	17	フォークリフトを使用して小割材を荷積みする作業中、補助作業者がフォークリフトに接触して轢かれた。	10401	50～99
2002	3	9	～	10	工場敷地内通路を協力会社の作業員が台車を押して歩行していたところ、親企業の作業員が運転するフォークリフトに正面から激突された。	11209	1～9

2002	3	14 ～ 15	材木置場でフォークリフトで木材の運搬・はい積み作業中、はい積みした木材をフォークリフトに装着したウィンチで引き抜いたときに、フォークリフトの後輪が敷地境界の溝に落ちて転倒し、運転手がフォークリフトと斜面との間に挟まれた。	170209	1～9
2002	1	11 ～ 12	工場内で道路用コンクリート二次製品（重量約2 t）を移動するため、フォークリフト（最大荷重4 t）を使用して持上げる作業中、不安定なため2～3度バランスを取る操作を行っていたときに、合図作業を行っていた者に突然製品が倒れ掛かり頭部を強打した。	10901	30～ 49
2001	12	17 ～ 18	作業場で倉庫荷物入力業務に従事していた者が、事務所に行くため歩いていたら、走行してきたフォークリフトに左足を左後輪にひかれて転倒し、地面に後頭部を強打した。	50101	10～ 29
2001	9	20 ～ 21	船内誘導員が貨物船内を移動中に、20ftコンテナを積んで後進してきたきたフォークリフトにひかれた。	50202	100 ～ 299
2001	8	22 ～ 23	パッケージ製造工場において、工場内を歩行中に走行してきたフォークリフト(最大荷重2.5t)に後方から激突された。	10609	100 ～ 299
2001	7	15 ～ 16	構内の作業長室へ班長日誌を提出するため50ccバイクで走行中、カーブを後退してきた20tフォークリフトの下部に巻込まれてた。	11001	300 ～
2001	3	11 ～ 12	フォークリフト(最大積載15t)で工場内の通路を走行中、T字路を右折する際に「ゴトン」という衝撃を感じたので、停車して後方を見たところ作業者が倒れていた。	10901	10～ 29
2001	1	13 ～ 14	燃料ボンベ置場において、棚から空ボンベを地面に降ろす際に、フォークリフトが後進たためフォークリフトとボンベ置場の棚との間に挟まれた。	10105	50～ 99
		15	工場内において、重さ約1tのコイル状に巻かれた鋼棒をフォークリフトの		100

2000	2	～ 16	フォークに掛け運搬していたところ、フォークリフトの進行方向に作業者が急に飛び出したので慌ててブレーキをかけたところ、その反動で鋼棒がフォークリフトの前方に落下し、作業者が下敷きとなった。	11502	～ 299
2000	11	16 ～ 17	造船所構内の道路を横断していて、スクラップ箱を運搬中のフォークリフトに接触して両大腿骨を骨折した。	11301	1000 ～ 9999
2000	6	17 ～ 18	就業時間が終了し帰宅するため自転車で構内道路(幅員14. 4m)を通行中、反対側より走行してきたフォークリフトと道路中央付近で正面衝突した。	10203	100 ～ 299
2000	12	9 ～ 10	フォークリフトで鉄板を運ぶため鉄板の下に角材を入れていたときに、走行して来たフォークリフトに激突された。	170209	100 ～ 299
2000	11	9 ～ 10	駐車場整備工事で、区画ロープを取り除いていたときに、土砂を運搬していた同僚が運転するフォークリフトに激突された。	30109	1～9
2000	8	14 ～ 15	工場内でフォークリフト(最大荷重1. 5t)で荷を積むため後進していたときに、近くに居た者をひいた。	10702	50～ 99
1999	10	18 ～ 19	製錬所構内でフォークリフト(最大荷重7t)で銅屑等を転炉へ運搬する業務を行っていて、T字路を左折したときに、自転車に乗って対向してきた者に気付かずひいた。	11101	300 ～ 499
1999	9	10 ～ 11	工場建屋内の通路の交差点で曲がろうとしたときに、バック走行で空パレット4段を運搬してきたフォークリフト(最大積載荷重2. 5t)に激突されて、後ろへ転倒し、後頭部を打撲した。	10109	100 ～ 299
1999	9	15 ～ 16	大型フォークリフトが前傾したためにはずれたカウンターウエイトに足を挟まれた者を助けるために、フォークリフトでウエイトを移動させようとしたときに、大型フォークリフトにぶつかり、その衝撃で2トンフォークが転倒	170209	1～9

			したため、近くにいた者が2トンフォークの下敷になった。		
1999	7	4 ～ 5	7tトラック置場で目的地に到着し、瓦を積んでフォークリフト(最大荷重2050kg)で瓦を下ろしていて、トラックとフォークリフトとの間に挟まれているのを発見された。	80109	10～ 29
1999	8	8 ～ 9	取引先に原材を降ろし、次の会社に向かうため「あおり」を確認して、トラックに乗り込むため、土間を横断しようとしたときにフォークリフトに激突された。	40301	1～9
1999	4	14 ～ 15	PC板製造用の生コンをホッパーに入れてフォークリフトで運搬中、構内の通路上にいた者をひいた。	10901	50～ 99
1999	4	10 ～ 11	配合飼料の入ったフレコンパックをフォークリフトで運搬し、空パックを回収するため走行中、配合飼料入りフレコンパックを吊下げ走行してきた同僚の運転するフォークリフトにひかれた。	11709	10～ 29
1999	3	8 ～ 9	バスにおいて、空の蓄電池式フォークリフトを運転してスロープをバックで登る途中で登り切れなくなったので、サイドブレーキをかけ右足をアクセルから離れた瞬間に前に滑り、約3メートル下に停車中のトラックの左後部にいた者にトラック左後部が当たった。	40301	1～9
1999	3	13 ～ 14	回収したフライヤーをステンレスとスチールに仕分けするため、フォークリフトを後進させていたときに、運転者がペダルの操作を誤って止まらずにそのまま後進させてしまい、フォークリフトの後方で作業していた者をひいた。	11009	1～9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_31.htmlに戻る。